

骨関節障害理学療法学演習

[演習] 第3学年 後期 必修 2単位

《担当者名》 武田涼子 r-takeda@hoku-iryu-u.ac.jp 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人

【概要】

整形外科疾患に対する関節別機能評価、ならびに運動療法の基本技術を学生相互の実習を通して身につける。関節別機能評価では、機能解剖と疾患を関連付けて、アライメントや関節機能を評価する手法について学修する。運動療法については、器具を用いた筋力トレーニング、固有受容覚トレーニング、各種体操療法を学ぶ。また、整形外科疾患に対する理学療法評価から介入プログラム立案までの一連のプロセスを学修する目的で、大腿骨頸部骨折、肩関節周囲炎、変形性膝関節症、脊髄損傷を例にペーパーペイシエントを用いた演習を行う。

【学修目標】

骨関節障害理学療法学で学んだ評価方法や運動療法をリスク管理をしながら実践できる。介入時点における理学療法の視点から個別の優先項目を判断し評価介入を行う事ができるようになるために、情報整理の方法を理解し介入プログラムの選択基準を判断できる。

1. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価を実施することができる。
2. 各種骨関節障害に対する評価結果から問題点（課題）を抽出することができる。
3. 各種骨関節障害に対する介入プログラムを立案することができる。
4. 各種骨関節障害に対する基本的な運動療法を実施することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	肩関節・上腕疾患	肩関節周囲炎、腱板損傷、肩関節脱臼、インピンジメント症候群などの肩関節・上腕疾患の機能評価法を学ぶ。 肩関節・上腕の疾患に対する運動療法を学ぶ。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
3) 4	肘関節・前腕・手関節・手指疾患	上腕骨顆上骨折、テニス肘、橈骨遠位端骨折、手根管症候群、手指腱損傷などの肘・前腕・手・手指疾患の機能評価法を学ぶ。 肘・前腕・手・手指の疾患に対する運動療法を学ぶ。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
5) 6	股関節・大腿疾患	変形性股関節症（保存・術後）、大腿骨近位部骨折など股関節・大腿疾患の機能評価法を学ぶ。 股関節・大腿の疾患に対する運動療法を学ぶ。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
7) 8	膝関節・下腿疾患	変形性膝関節症（保存・術後）、脛骨高原骨折、靭帯損傷、半月板損傷などの膝関節疾患の機能評価法を学ぶ。 膝関節・下腿の疾患に対する運動療法を学ぶ。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
9) 10	足関節・足部疾患	果部骨折、アキレス腱損傷、外側側副靭帯損傷などの足関節・足部疾患の機能評価法を学ぶ。 足関節・足部の疾患に対する運動療法を学ぶ。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
11) 12	脊柱疾患	頸椎症性脊髄症、頸椎症性神経根症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症などの脊柱疾患の機能評価法を学ぶ。 脊柱疾患に対する運動療法を学ぶ。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
13) 16	脊髄損傷	脊髄損傷の機能評価法を学ぶ。 脊髄損傷に対する運動療法を学ぶ。 特別講師：黒川奈津美	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
17) 18	高齢骨関節疾患	脊椎椎体圧迫骨折、骨粗鬆症、ロコモティブシンドロームなどの高齢骨関節疾患の機能評価法を学ぶ。 高齢骨関節疾患に対する運動療法を学ぶ。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
19)	トレーニング体験	弾性素材を用いた筋力トレーニング、固有受容格トレーニング。等速性筋収縮トレーニングについて、方法の選択基準、トレーニング原則に基づいた強度設定に	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
20		ついて実際の器具を用いて体験する。	河治勇人
21) 22	演習 - 1	ペーパーペイシエントを用いて変形性膝関節症に対する一連の理学療法を組み立てる。患者情報から病態の推定、評価項目の選択、優先順位の考察、障害構造分析を行う。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
23) 24	演習 - 2	ペーパーペイシエントを用いて変形性膝関節症に対する一連の理学療法を組み立てる。障害構造分析から介入方法とその妥当性の検討を行い報告会を実施する。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
25) 26	演習 - 1	ペーパーペイシエントを用いて大腿骨頸部骨折に対する一連の理学療法を組み立てる。患者情報から病態の推定、評価項目の選択、優先順位の考察、障害構造分析を行う。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
27) 28	演習 - 2	ペーパーペイシエントを用いて大腿骨頸部骨折に対する一連の理学療法を組み立てる。障害構造分析から介入方法とその妥当性の検討を行い報告会を実施する。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人
29) 30	演習	ペーパーペイシエントを用いて肩関節周囲炎に対する一連の理学療法を検討し報告する。	武田涼子 佐々木祐二 山根裕司 河治勇人

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・定期試験70%、レポート30%（定期試験受験資格は学則に準ずる）
- ・定期試験および追再試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

【教科書】

高柳清美 他 著 「運動器障害理学療法学テキスト」 南江堂 2011年

小柳磨毅 他 著 「PT・OTビジュアルテキスト 局所と全身からアプローチする 運動器の運動療法」 羊土社 2017年

【参考書】

Donald A. Neumann 著 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」 医歯薬出版 2012年

神野哲也 監修 「ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション」 羊土社 2012年

【学修の準備】

- ・授業概要に記載の関節に関連する解剖学、運動学を復習して臨むこと。
関節を図示し運動を生じさせる筋活動と関節運動の制限因子を述べられること。
前期開講の骨関節障害理学療法学や2学年開講の整形外科の復習をしっかりと臨むこと。（予習80分）
- ・講義資料、講義メモや講義内で示した練習問題を中心に学習を深めること。（復習80分）
 1. 関節に生じやすい整形外科的疾患について、機能解剖と関連して何故生じやすいのか述べられること。
 2. 関節ごとに必要な理学療法評価と効果的な理学療法について述べられること。
 3. 評価結果が示す病理変化や機能障害について病期に応じて適切な理学療法介入方法を述べられること。
 4. 対象疾患に対する一般的な理学療法介入方法を実践できること。
 5. 一般的症例検討結果について理解を深めること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP6）社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を實踐できる能力を身につけている。

【実務経験】

武田涼子（理学療法士） 佐々木祐二（理学療法士） 山根裕司（理学療法士） 河治勇人（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や福祉施設における理学療法士としての実務経験を活かし、病態の理解から評価、障害像理解、理学療法の方針、実際の理学療法介入について、演習を通して指導する。